



ほっとたいむ

令和6年6月吉日

通級指導教室で育てたい力を見極めるときに必要なこと

通級指導教室とは、小学校や中学校で一部の授業を通常の学級とは別の通級指導教室で受ける制度のことで、通級とも呼ばれています。

通級では障害による学習や生活での困り感がある子どもたちが対象になり、その子どもの困りごとに合わせた指導が行われます。多くは、担当者と子どもとの一対一の関わりの中で見られる様子のご家庭や通常の教室で見られる様子が一致することは少ないため、子どもの一番の課題を見極める（＝アセスメントをする）際に、それぞれの場所で見せる子どもの言動を知ることがとても大切になってきます。そのため、通級指導教室に通うお子さんの様子を共有する「まほろばファイル」をととても参考にしています。

ファイルにある【お家の人から】という欄には、普段の様子やご家庭での困りごとなど、何でもご記入ください。そこから見えてくる子どもの様子を知ること、今、この子にどんな力を身に付けさせることが大事なのかを私はいつも考えています。

保護者の皆様には、いつも円滑なファイルのやりとりをしてくださり、ご協力に感謝しています。

先日子どもがおたまじゃくしとえびを見つけました。
四つ葉のクローバーを浮かべて、元気に育つように祈りました♪



子どもの力を伸ばすために、大人が意識すること

先日、「不登校」について考える会がオンラインで開催されていたので、私も参加しました。そこで、講師の方が言われたことがとてもすてきだったのでご紹介します。

それは、『「うちの子、何の天才？」と常に考えることが子どもの才能を伸ばす』というものです。

例えば、子どもがカッとなって、近くの物を蹴ったとします。その時に、私たちはすぐに「物に当たってはいけないよ」と注意しようとしませんか？もちろん、私も教育上そうしますし、子どもには「いい人」になってもらいたいし、人に愛される幸せな人生を送って欲しいと思っています。だから、私たち大人は、子どもが少しでもいけないことをすると、怒ったり注意したりしてしまいがちですよ。叱責や注意は、もとを辿れば、子どもの幸せを願って、良かれと思ってしているはずなのです。

でも・・・叱られてばかりの子どもたちの気持ちはどうでしょうか？子どもたちは叱られることが多くなると、いつの間にか【お母さん（大人）は私（ぼく）のことを分かってくれない】【お母さん（大人）は、私（ぼく）のことが嫌いなんだ】そんなことを言うようになります。

私自身も自分の子育てでは、感情的に怒ってばかりの人間でしたから、良かれと思って注意し続けることで、関係が壊れるばかりか愛が全く伝わらなかった経験がたくさんあります。本当は、子どもの幸せを望んでいたはずなのに・・・です。

だから、子どもに注意したくなったとき、そこから発想の転換です。「ものの見方」をチェンジしてみませんか？

それが、はじめに言った「うちの子、何の天才？」と考えることです！

子どもが怒って物を蹴飛ばしたとき、「あれ？もしかして、うちの子、サッカーの天才？」と、考えることができる。「そんな物を蹴るより、こっちを蹴ってみて！」と、サッカーボールを渡せる（笑）。ボールが遠くまで飛んだら、誉めてあげられる（笑）。親も子ども物を蹴ったことを厳しく叱るよりもずっといい気持ちになれるはずです。

他にも、子どもがずっと大きな声で泣いて泣き止まないときは、「こんなに声が出し続けられる喉を持っているなんて、もしかして歌の天才？」とか、子どもがずっと走り回って、落ち着かないときには、「こんなに持久力があって、走るのが好きなんて、もしかしてマラソンの天才？」などと考えてみると、子どもの良い面が見えてくるかもしれません。

そんな風に、私たち大人の見方を変えることで、子どもはそのまま、ほとんどの子が天才に早変わりするはずです。この考え方がとてもすてきななあと思いました。

ぜひ、子どもの言動にイライラしたときや注意したくなったとき、ふと考えてみてください。「うちの子は、何の天才だろう？」

私も「まほろば」で、子どもたちの魅力を見つけていきますね。